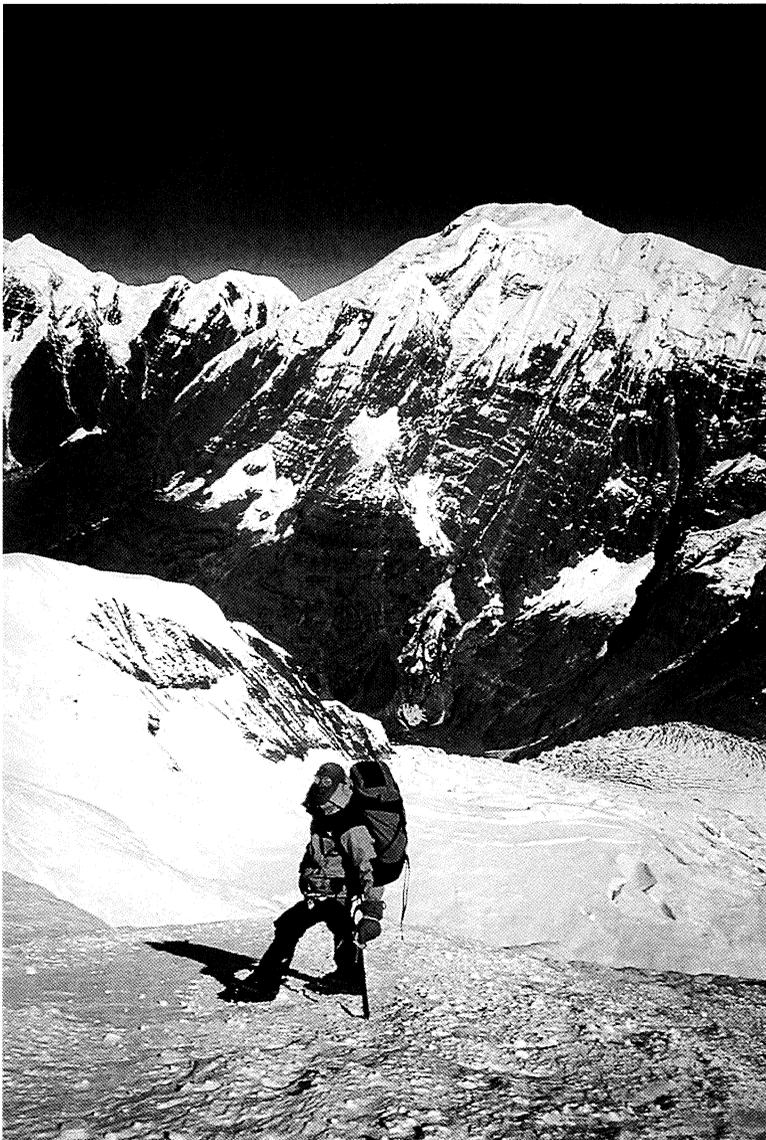


山岳ぐんま



2004年10月10日 6,100m付近を進む名塚秀二登攀隊長



アンナに逝った名塚に

心から哀悼の意を捧げます

前橋山岳会会長 小泉俊夫

二〇〇四年一〇月一〇日午後六時三〇分、アンナプルナ登山隊より名塚の雪崩遭遇による遭難の第一報が入ってきた。「まさか」と思いながら「そうか」と、納得するよりしかたがなかった。出発を前にしての飲み会が最後になって

しまった。十四座完登を前にしてこの遠征(アンナプルナ)についても、どうしてもやらなければならぬ課題ではあった。「名塚それで良かったのか」と思いながら悔やまれる山であった。残念でない。

名塚が入会してきたのは、会の創立四〇周年記念事業(一九八一年)の準備が進み始めた時だったと思う。

坊主頭で、髭を伸ばしていたような記憶がある。一見、恐持てる新人会員だった。話してみると思った、そんなことはなく好印象だった。

例会の席で遠征参加希望者を募った時、いち早く手を上げた一人だった。この遠征は残念ながら敗退という結果で終わってしまったが、これが名塚の海外への第一歩だった。

帰国して、すぐに名塚達に連絡をとり再挑戦を迫ったがよい返事をもたえなかった。どうしても駄目だと言う。「登れないですよ。すぐない返事だった。」

その後、すぐに海外ではなかったが、ミヤマの佐藤氏等と登った丸山東壁以後、海外登山へと進んでいった。

植村直己物語でのサガルマータから、カンチ・K2・冬期サガルマータ南西壁など九座十度の八〇〇〇m峰登頂を成し遂げ、ブランク後十四座完登を目指しての再挑戦であったがアンナプルナに逝ってしまった。残念でならない。

今はただ、名塚よ安らかなれと祈るばかりである。合掌。

アンナプルナーI峰登山隊

雪崩遭難事故経過報告

前橋山岳会会長 小泉俊夫

この度の、会員名塚秀二(群馬県山岳連盟理事長)遭難事故に際しましては、群馬県山岳連盟の関係者をはじめとして、日本山岳協会、日本ヒマラヤ協会また名塚の登山を通して関係する多数の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。遺体収容に際しては、山本隊員に再度現場に戻ってもらい指揮をお願いし遺骨も日本に帰ることが出来、十一月七日には多くの皆様のご会葬の下、無事葬儀も済ませることが出来ました。ここに簡単ではありますが事故報告として時系列を報告させていただきます。

登山隊は9月1日に関西国際空港より出国。イラクでのネパール人質殺害事件に呼応して発生した暴動により、9月2日から9月5日の間、カトマンズ市内に外出禁止令が発令された為、隊荷準備官公庁への登山申請が遅れ、予定より三日遅れの9月9日にカトマンズ出発(陸路)、同10日よりキヤラパンを開始。

- 9月16日 馴化BC(四三〇〇m) 設営
- 9月23日 ABC(四九〇〇m) 設営
- 9月28日 C1(五三〇〇m) 設営
- 10月6日 C2(六六〇〇m) 設営
- 10月9日(事故前日) C3(七三〇〇m) へのルート工作の為、サーダー、クライミングシェルパはC2(六六〇〇m)に滞在。
- 名塚・西村隊員はC1(五三〇〇m)において休養、佐藤・山本隊員はC1とC2間の高度馴化、及びC2までのC3用装備の荷揚げを行う。
- 10月10日(事故当日) 名塚・西村・山本隊員は、翌11日に行うC3設営のためにC2にて滞在予定。佐藤隊員は、C1とC2間の高度馴化のため、前日より続く快晴の天気の中、早朝より登山を開始した。
- 11時00分頃 標高六二〇〇m 六三〇〇m付近を登山中(名塚、山本、佐藤、西村の順)に、上部

氷河のセラック崩壊により発生した大型雪崩に、隊員四名全員が巻き込まれた。その後より周辺を捜索するが、佐藤・名塚隊員が行方不明。11時40分に西村・山本隊員は関係各所への連絡のため、ABC(四九〇〇m)までの下山を開始。

下山途中、標高五八〇〇m付近の雪崩の流路上に、佐藤・名塚隊員が倒れているのを発見。12時30分に山本が二名の死亡を確認後、西村は衛星電話と無線で事故連絡を直ちに行うため、ABCに向けて下山。山本は、周辺の中では比較的安全な場所に遺体を移動仮固定し、散乱した遺品を回収後、同じくABCへ下山。事故後、C2(六六〇〇m)より下山したサーダー、クライミングシェルパとともに遺体収容の可否、対応を協議。

10月11日 西村は関係各所への連絡及び不測の事態に対応するためにABCにて待機。山本及びネパール人スタッフ三名は二遺体の収容の為、遺体仮収容場所に向かうが、悪天と再度の大型雪崩にあり、搬送機材のほとんどを流失、また、周辺から絶えず雪崩が発生する状況となり、収容隊の二重遭難を避ける為、遺体の収容を断念し、一旦ABCまで下山。

10月12日 終日降雪のため、ABC及び馴化BCにて全員待機。大量の降雪の為、登山隊のみでの二遺体の収容を断念する。馴化BC



北面ルート概念図
1979年 静岡県ヒマラヤ登山隊(静岡県山岳連盟)概念図を基本図として作成。



10月20日事故現場周辺 (5,400m付近より撮影)

からの物資補給前での悪天であった為、ABCの残燃料、残食料が数日分、馴化BC周辺も大量の降雪との無線連絡あり。通常三日間程度で到達できる一番近いレテの町までは、隊の共同装備を放棄し必要最低限の装備で好天のなかで下山するとしても一週間程度はかかると思われ、ネパール人スタッフを含め全員が危機的状況下にあることが明らかで、ヘリコプターによる救助を要請。ABC(四九〇〇m)において約一〜五mの降雪。(FIXロープ、竹の進路標識がすべて埋まる)

10月13日 ABC 周辺では晴天ではあったが、雪は安定しておらずABC(四九〇〇m)から上部へも馴化BC(四三三〇〇m)へも動くには雪崩の危険性が高すぎると判断。ヘリポートを作り、待機態勢に入る。(馴化BCも隊荷整理を行い、待機態勢に入る。)

の三名ネパールへ入国する。春日井山岳会の佐藤夫人子供二人、永田、大窪の五名も一緒に入国。
10月14日 早朝よりヘリコプターを待機するが、カトマンズ悪天の為、飛行不可の連絡。ABCは昼前より悪天。キャンプを再設営、再び待機に入る。約〇・三mの降雪。
10月15日 早朝にヘリコプター飛来、馴化BC及びABCの人員、装備を収容、ポカラ通過後、カトマンズ到着。エージェント、ご遺族及び日本からの遭難対策関係者と面会(ホテル会議室、事故の状

況について説明。遺体収容に関して対応を協議。その後隊員二名(西村、山本)は健康状態の診察を受け、医師の診断により西村は再入山を禁止される。
10月16日 遺体の収容に関して、ご遺族の意思を確認後、日本の対策本部にその旨を伝え、遺体収容の作業に関する取り決め事項を文書で確認の後、再入山の了承を得る。
10月17日 遺体収容隊を結成(山本、ネパール人クライミンググループ八名、コック一名、隊荷準備、ヘリコプターでご遺族とともにポカラへ移動(名塚好・名塚兄・小泉・佐藤親子・永田)
10月18日 ヘリコプターでポカラよりABC(四九〇〇m)に入山。キャンプ設営。装備の準備(ABCへの荷揚げにヘリは二往復する。)

※ 名塚好子、名塚(兄)、小泉の三名ネパールへ入国する。春日井山岳会の佐藤夫人子供二人、永田、大窪の五名も一緒に入国。
10月14日 早朝よりヘリコプターを待機するが、カトマンズ悪天の為、飛行不可の連絡。ABCは昼前より悪天。キャンプを再設営、再び待機に入る。約〇・三mの降雪。
10月15日 早朝にヘリコプター飛来、馴化BC及びABCの人員、装備を収容、ポカラ通過後、カトマンズ到着。エージェント、ご遺族及び日本からの遭難対策関係者と面会(ホテル会議室、事故の状

国(名塚兄・小泉・佐藤親子二人の四名)。機体のトラブルで離陸後またカトマンズに戻る。別の飛行機に乗り換え上海経由で関空に向かうが台風の為ほとんど日本の上空よりまた上海に戻る。日本着は21日夕方となる。
10月20日 早朝より行動。11時50分に隊員(山本、シェルパ五名)が遺体仮収容場所(五八〇〇m)到着。ゾンデ棒感触によつて積雪二〜二・五m下に二遺体を確認、掘り出し後、搬送。日暮れまでにC1(五三〇〇m)下の標高五〇〇〇m地点まで下ろす。
10月21日 標高五〇〇〇m地点より、ABCまで二遺体を収容。ヘリコプターを要請。
10月22日 ヘリコプター飛来。ポカラの警察立会いの検視確認後、隊員とともにカトマンズにヘリコプターで搬送。病院にてご遺族と対面。
10月23日 ネパールの全国的な休日のダサイン大祭の期間中(10月15日〜25日)の為、祭日期間中に使用可能な葬儀会場の手配。葬儀、茶毘等の打ち合わせ。御棺、供花等の準備。
10月24日 カトマンズ市内のソイヤンブナート寺院、アナンダクツ

※ 名塚兄・佐藤親子・小泉・西村は葬儀のお寺と茶毘に付する場所を確認しに出かける。
※ 夜の直行便にてネパール出

10月25日 ネパールの全国的な休日のダサイン大祭の最終日の為、官公庁は休日。死亡証明書の申請に必要な書類等の事前準備。登山隊の現地購入装備の代金等の清算。
10月26日 ネパール観光省へ死亡証明書の申請、登山終了の報告書を提出。日本大使館へ骨壺の封印を申請(機内持ち込み時の保安検査を避ける為)。事故報告書を提出。
10月27日 ご遺族(佐藤、名塚夫人)ご遺骨とともにネパール出国。死亡証明書の受け取り。
10月28日 登山隊関係各所、官公庁への登山終了の諸手続きを行う。ご遺族帰国(小泉・湯沢夫婦・金子成田空港へ出迎え)
10月29日 登山隊の隊荷整理、経費清算、借用装備品の返却及びリストの作成。
10月30日 西村、山本隊員、遭難対策関係者、ネパール出国。
10月31日 西村、山本隊員、遭難対策関係者、帰国。

11月7日 故名塚秀二(登攀隊長)葬儀。
11月14日 故佐藤理雄(登山隊長)葬儀。
この時系列は登山隊の報告書に一部加筆してまとめたものです。又添付の図や写真は山本隊員によるものです。

平成十六年度 登山教室を終えて

群馬岳連登山指導部 高橋守男

登山事故防止、とりわけ中高年登山者の事故防止と、如何に余裕を持ちながら山歩きを楽しんでもらえるかを目標に、今年度も恒例の登山教室が開催された。登山教室の担当を日向野さんから引き継ぎ、これまでの伝統をふまえながら新しいスタートをする年となった。担当者で仕事分担をしながら取り組む中、参加希望者も例年並みとなり、大過なく再出発ができたようである。

今回は、指導員資格更新を控えて例年以上の数の指導員の助っ人があり、講習内容の幅が広がった。また、榛名山では四班がそれぞれ別のコースを歩き、各班長を中心に工夫をこらした実技講習が行われた。



六十五名の申し込みがあつたが、五十八名の方が参加した。毎回出席率はかなり高く、全回出席で修了証を獲得された方は四十三人となった。申し込みの平均年齢は五十五歳、最高年齢は七十歳、最少年齢二十九歳、男性三十七名、女性二十八名であつた。

課題としては次のようにまとめられると思うが次回への課題としたい。

①**募集方法** 上毛新聞への掲載が申込み締め切りの数日前となり、応募しにくかつたようであつた。新たな試みとして、来年度の要項郵送用の返信用封筒を、閉会式で十一人の方から預かつた。

②**講習内容** 昨年度は尾瀬での一泊二日の実技があつたが、今回は、宿泊実技講習は計画しなかつた。隔年程度で入れていくのが適当かもしれない。

③**実習地** 実技講習に適した山の条件は多々ある中、榛名山は講習しやすかつた。条件としては、県内各地から遠くなく、三〜四コースが取れ、読図練習のしやすい地形等があるが、山域を変えながらこれらを十分に満たすところを毎年確保するのはなかなか難しい。

④**班分け** 初めての参加者を中心

としながらも、複数回参加者にも魅力のある講習会とする工夫が必要である。

内容

9月7日(火) 開講式・講義
「地図の読み方・コンパスの使い方」

講師 新井・日向野
9月12日(日) 登山実技

「掃部ヶ岳・二ツ岳・天目山」
9月14日(火) 講義

「天気の見み方」
講師 山田・鹿田

10月3日(日) 登山実技
雨天のため北毛青年の家体育館にて座学

10月5日(火) 講義・閉講式
「安全登山と事故への対応」

講師 町田 「修了証交付」
講師 班順 ◎は班長

吉田 直人(境町山の会) ◎
中原 正喜(群馬ミヤマ山岳会)

鹿田 雄三(高体連)
清水 人志(群馬ミヤマ山岳会)

高橋 守男(高体連) ◎総務
出雲 清己(伊勢崎ハイキング協会)

結城 雅則(群馬登高会)
佐藤 光由(群馬ミヤマ山岳会)

久保田一美(太田山岳会) ◎受付
新井 好司(高体連)

対比地 昇(高体連)
山田 精一(高体連) ◎事務

登坂 巖(高体連) ◎会計
寺田 勉(太田山岳会)

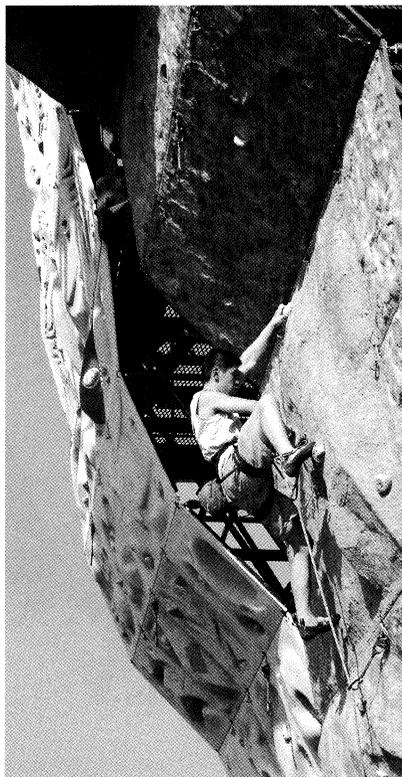
岡 重雄(高体連)

田中 弘(群馬むすびの会)
日向野克己(高体連)

町田 幸男(太田山岳会)
阿部 源(大間々山岳会)



第六回関東地区 スポーツクライミング競技会レポート 群馬岳連クライミング部長 堀越利通



「関東地区スポーツクライミング競技会」と聞いて、「あの競技会のことか」とわかる人が岳連内どれくらいいるだろう。ほとんど知られてはいないと思うが、この競技会も今年で六回目である。

関東地区一都六県の代表が、部門でクライミングの技を競い合う大会である。

平成十六年十一月七日に山梨岳連主催で開かれた競技会を、クライミング部三名、国体部一名で見学に行ってきた。本年十七年の主催は群馬岳連。大会の模様や運営について参考にするためである。

会場は、小瀬スポーツ公園の南に位置するクライミング場。宝くじ基金で一億四千万円をかけて造られ、屋内にはアイソレーションルーム及びボルダー壁、屋外には

高さ15mの人工壁のある建物である。競技はこの屋外人工壁で行われた。横幅10mの壁はピラミッド社のもので、片側半面がフランス製、もう半面が日本製。競技用ルートは、この壁を半分ずつ使い

二本造られた。高さ15mの壁は三段に分かれ、二段目と三段目の壁の傾斜を自由に変えられるというすぐれもの。壁面は、自然の岩のように作られたFRPで、コンパネのように無数にホルドが取り付けられるのではなく、取り付け位置は限定されている。競技会用の壁としては高さも充分にあり、壁の傾斜を変えることで難易度も変えられるという最適の壁である。

競技は、少年男子、少年女子、成年男子、成年女子の四部門で行われる。午前中に少年男子予選、

少年女子決勝、成年女子決勝が行われ、ルートセットの時間をはさんで午後に少年男子決勝、成年男子決勝が行われた。参加者の様子を見ると、同じ関東地区でもクライミングに力を入れている県と、そうでない県との差が顕著に見られた。選手五十六名の中、群馬からは二名が欠場し、少年男子の堀込悟君ただ一人の出場であった。そんな中で予選を一位で通過し、決勝に進んだ堀込君の健闘を称えたい。

競技会の運営について、競技副委員長に聞くと「場所があるので、日時さえ決まればあとはスムーズに行きますよ」とのこと。役員は総勢四十六名、競技会には不慣れな様子を見せながらも滞りなく役目を果たしていた。これは私達にも言えることで、ビレーヤの確保と事前の講習会その他競技会を支える役員の確保が重要である。

群馬で主催する際の一歩の問題は、会場をどこにするか、である。競技会を行うには、高さ10m以上の壁が必要であるが、群馬県内にはそんな人工壁のある施設はない。唯一のクライミングジム、ウォールストリートでも高さは5mほど。この壁に競技用ルートをどう設定するか、工夫のしどころである。

群馬での開催には、恵まれたクライミングウォールを持つ他県とは違った「壁」がありそうである。

平成十六年度 冬山合宿 群馬岳連遭難対策部長 松永幸雄

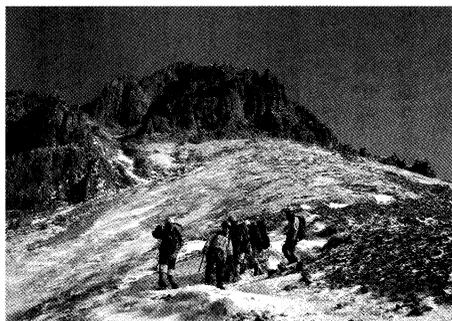
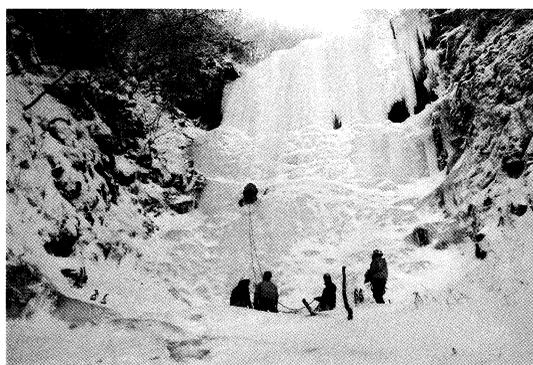
群馬岳連の平成十六年度の冬山合宿が左記のように実施されました。

合宿を計画した会は七つの会で、十二パーティでした。

太田山岳会 霞沢根(2名)

- 爺ヶ岳(5名)
- 鹿島槍ヶ岳(2名)
- 硫黄尾根(2名)
- 北鎌尾根(2名)

- 大間々山岳会 大喰岳(4名)
- 桐生山岳会 八ヶ岳(4名)
- 境町山の会 谷川岳(3名)
- 沼田山岳会 谷川岳(7名)
- 八ヶ岳(6名)
- 前橋山岳会 槍ヶ岳(3名)



八ヶ岳合宿 (沼田山岳会)

松井田山岳会 八ヶ岳(6名)

以上のように実施されましたが、当初の計画通りに実施されたのは、太田の槍ヶ岳北鎌尾根と沼田の八ヶ岳、前橋の槍ヶ岳、松井田の八ヶ岳のみで、社会情勢の変化で長期の休みが取れなかったり、メンバーの高齢化等の力不足が見受けられました。

何とかこの一年力を付けて、将来、より困難に立ち向かう合宿が出来るよう頑張ってもらいたいです。

岳連氷壁技術講習会に参加して

群馬県高体連登山部 関口 哲生

もう大分昔に高体連の先輩から、氷登り講習会に行ってみないかと誘われたことがあった。当時は、氷の世界など恐れ多いと思っていた。その後、海外登山の話が持ち上がり、その訓練の一環として三回ばかり参加させて頂いた。

最初の92年の時は田中成幸氏に指導を頂いた。94年は谷川岳遭難救助隊長の馬場氏も見えていた。95年には故星野龍史氏にも教えてもらった。

そしてその成果も実り、97年の海外登山を無事終えることが出来た。その後しばらく氷壁講習会と

も縁遠くなっていたが、退職も近づき大いに山に入れる境遇になってきた。そこで、再び岳連の講習会に参加させて頂き、技術力アップを図ろうと考えた次第である。

駐車場に着き準備をした後、本日の講師である岳連副会長の田中成幸氏より挨拶を頂く。今日の天気は積もった雪が時折の強風に舞ったりしているが、青空に白い山肌がキラキラと輝いている。

ここから氷壁までは約三十分の歩行がある。

気温は低いのにやはり汗をかく。松木沢周辺はあまり植物のない荒



々しい迫力ある岩肌が我々を迎えてくれている。見るとそこには、しっかりと凍った氷壁が迫っている。早速、

初級コースと中・上級コースに分かれる。私は一応四回目と言うことで後者の班に入れられた。講師はそれぞれ阿部源氏と田中成幸氏が担当し、それぞれのアシスタントを武井幸一氏・久保田一美氏及び角田守氏

・田島崇行氏が務める。最初、講師からの丁寧な説明や注意があり、それぞれ氷壁の下部で、早速、その内容を訓練する。

次に角田氏と田島氏がランニンググレイをとりながらリードで登ってゆく。参加者のほとんどの方が高価な最新のアイスクリュウを何本も所有している。もちろん、氷壁専用のアイゼンやシャルレ、ブラックダイヤモンドの最新のアイスバイルやその他多くの用具を揃えている。私が所属する高体連の方達とは雲泥の差である。

いよいよトップロープでめいめいが登り始める。アイスバイルが気持ちよく氷壁に刺さり、アイゼ



ンを力強く蹴り込み登る。時折、大小の氷片がカラカラと音を立てて落ちてゆく。「ラク!!」と大声で叫び、下の人達に注意を促す。

緊張する一瞬だ。そんなことにもめげずに更に登攀を続ける。時折舞う雪混じりの寒風の中、参加者の心意気だけが熱く燃えている。全員が登ると、更に上部に次の氷壁が待っている。やはり角田氏と田島氏がルートを開く。今度は二組に分かれ、一組は同じくトップロープで、もう一組は固定されたたいくつもの支点に掛けられたヌンチヤクにザイルを通しながら登る。岳連の有望な若手が果敢に挑む。幾多の試練に遭遇し、多くの逸材を失ってきた群馬岳連であるが、

明日を担う後継者が着実に育ってきているのを強く感じた。登攀の途中でも、講師の熱心で適切なアドバイスが掛かる。有り難いことである。

気が付くと昼食の時間もなく15時近くまで行われていた。

一日中青空で最高の天気にも恵まれ、事故や怪我もなく参加者全員が楽しいうちに技術の飛躍が見られた。

最後は全員で復習やまとめを行い講師に熱心な質問をする。

その後用具の返却等を済ませ約三十分の歩行で車の処に戻る。そこで図らずも茨城岳連の方々とい、親交を深める。堰堤横の駐車場で閉会式を行い帰路に就く。

こんなにも充実した講習会が毎年何回も行われている。内容も氷壁の他に岩登り、沢登り、雪山訓練、登山教室等々豊富である。誰でも参加できるのも実に有り難い。山岳会に所属していない一般の方々も、積極的に参加してより充実した技術を高め、安全登山を心掛けたらオールラウンドな山登りが目指せる。群馬岳連の素晴らしさと力強さを痛感した氷壁講習会であった。

◆アイスクライミング講習会メモ

期日 平成十七年二月六日

会場 足尾 松木沢

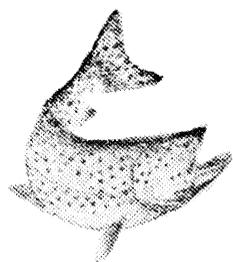
参加者 31名(男25名、女6名)

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna

高崎八幡霊園 墓石指定店
観音山聖地霊園
墓地取扱店



高

橋

石

井

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

携帯 090-8725-8456

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223

伊勢崎市小泉町252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中心町18-8

TEL 0270-25-0272

平成17年度 社団法人 日本山岳協会 **山岳共済会のお知らせ** **NEW!!**

期間 平成17年4月1日～18年4月1日（中途加入できますが、会費、終期は同じ）

一般共済17年度の補償金額および会費

契約基本タイプ	高校生	A	B	C	D	E
死亡・後遺障害	150万円	180万円	200万円	300万円	400万円	1,000万円
遭難捜索費用	100万円	200万円	200万円	250万円	350万円	500万円
個人賠償責任			1億円	1億円	1億円	1億円
会費	¥3,000	¥5,500	¥6,200	¥8,000	¥11,000	¥18,000

平成17年度より高体連所属山岳部員等を対象とした、高校生共済を追加いたします。
上記各基本タイプに入通院のオプションを追加した場合の合計金額は下記のとおりです。

契約基本タイプ	高校生	A	B	C	D	E
入院(1日につき)	3,300円	3,300円	3,300円	3,300円	3,300円	3,300円
通院(1日につき)	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
追加会費	¥4,000	¥4,000	¥4,000	¥4,000	¥4,000	¥4,000
合計金額	¥7,000	¥9,500	¥10,200	¥12,000	¥15,000	¥22,000

特別共済17年度の補償金額及び会費

契約基本タイプ	I型	II型
死亡・後遺障害	300万円	300万円
捜索救助費用	300万円	300万円
個人賠償責任	1億円	1億円
入院(1日につき)	2,000円	4,000円
通院(1日につき)		1,700円
会費	¥3,000	¥6,000

海外山岳共済の補償金額及び追加会費

一般共済、特別共済共通です。

契約基本タイプ	
死亡・後遺障害	100万円
救援者費用	500万円
個人賠償責任	1億円
追加会費	¥10,000

死亡見舞金

山岳登はん中に疾病を要因とする死亡事故発生の場合、山岳共済会より会員の家族の方へ死亡見舞金(10万円)を支給します。(一般共済、特別共済共通です)

お問い合わせ先

(社)日本山岳協会山岳共済事務センター 月～金 10:00～17:00(土・日・祭日を除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397 Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業 萬屋建設株式会社

会長 星野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
 TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
 大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
 TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964